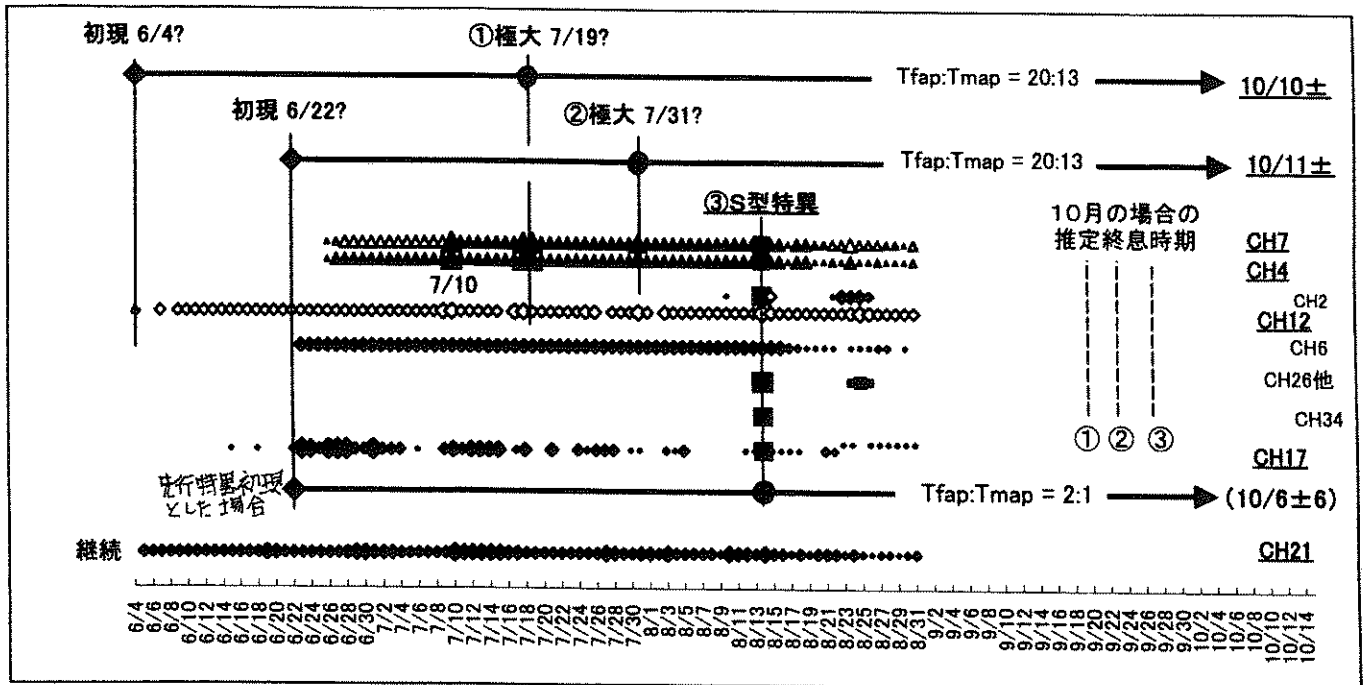


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆 地殻大型地震の可能性推定前兆 続報



2008年07月より過去例の無い最長継続前兆群は、8/14にS型特異が出現し、事実上第8ステージに突入しています。8/14を示す前兆の変化形態を削除し、第8ステージと認識される前兆のみに絞った前兆出現状況は上図のとおりです。

09月上旬発生の可能性も検討されましたが、その場合は08月下旬迄に前兆が終息することが条件でした。実際は上のとおり、本日も前兆は継続出現しています。

前兆状況は一進一退のレベル変化を繰り返し、終息しそうな程、前兆が減衰したかと思うと、再び明確に現れる等を繰り返しながら、徐々に減衰傾向にあります。

糸状態特異が長期出現していたCH17は、8/22を最後に通常基

線を記録しています。但し基線に若干のゆらぎが認められるため、段をずらした小マークを示してあります。CH6も殆ど静穏基線です。

直接波近似変動のピーク認識は、7/18、7/31です。S型特異は8/14です。上図の前兆初現との関係で同じ時期が出るのは、上図に書き込んだ関係のみでした。これが正しいか否かはまだ不明です。いずれにしても前兆終息を観測し、実際の発生時期を計算するべく観測を続けています。

これよりも早い時期に発生が推定される前兆終息が観測された場合は、すぐに続報させて戴きます。少なくとも本日前兆が継続出現していることから09月中旬以前の発生は否定できます。

◆推定領域：右図A

大枠推定領域=大線内
参考推定領域=斜線域

※S型特異が火山帯近傍を示す場合を仮定した場合の可能性が考え易い参考領域=A-1 斜線域

※可能性低いが影響局誤認の場合の別領域可能性=B

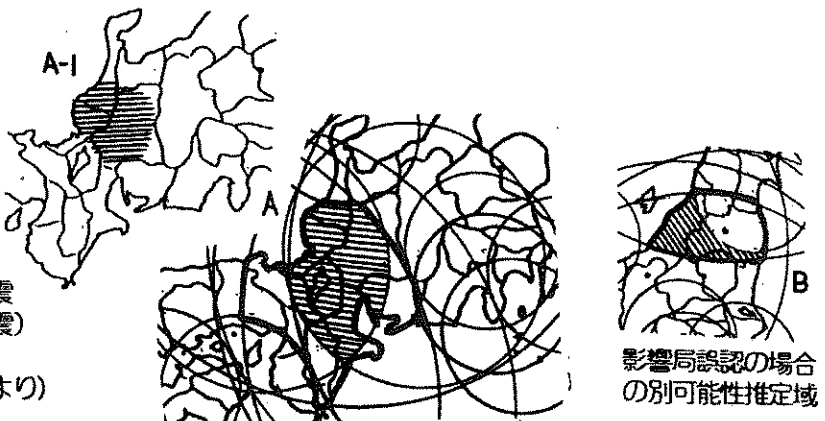
◆推定規模：M7.8±0.5 (M7.5~7.9内の可能性)
(推定根拠：複数のPBF前兆出現継続時間計より)

◆推定時期：実際の前兆終息を観測後、計算し推定

◇推定地震種：震源の深さ30km以内の日本列島地殻地震
(前兆出現回数が最多=陸域 前兆期間長い=地殻地震)

◇推定発生時刻：午前9時±2又は午後6時±2

(推定根拠：複数出現したBTの日々BT出現終息時間帯より)



影響局誤認の場合の別可能性推定域

※FAX とE-mailで日々配信しております「地震前兆検知実験観測情報」では、変化及び考察内容を報告していましたが、HPの方は、ある程度の間隔となってしまいます。お許し下さい。本続報も8/31 16:20配信情報の一部転載です。

※多忙のため、本続報は FAX & E-mail で配信しております「実験観測情報」8/21 17:00配信分を転載させて頂きました。

※関東・東海・東南海等での巨大地震前兆=観測されておられません。

C) Copyright 2015 YSBO 八ヶ岳南麓天文台